# イブキ

*Juniperus chinensis*

# イブキ

使用部位

使用する季節

春 夏 秋 冬

## 作品例

華道家元池坊

草月流
勅使河原宏
撮影：安斎重男

## 需要スケジュール

◯：使用するが、年により異なる

| 流派 | お稽古クラス | 1月 | 2月 | |
|---|---|---|---|---|
| 池坊 ※1 | 中級～上級者 | ◯ | ◯ | |
| 龍生派 | 初級～上級者（生花） | ◯ | ◯ | |
| 古流理恩会 ※2 | 初級～上級者 | ◯ | ◯ | |

※1：月、季節を問わず使用する花材であるが、中級以上に値する弟子の1/2が年に1、2度使用する。

※2：通期にわたって使用するが、特に月は決まっていない。

龍生派
生花　伊吹に中菊の根締めいけ

古流理恩会
生花
二重切　流生（草型）　本手生（真型）

| | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

# 各流派の求める規格

## 池坊

### 立花

| | |
|---|---|
| 使用時期 | 通年 |
| 使用本数 | 3本 |
| 枝のサイズ | 60ｃｍ位 |
| 枝ぶりなど特徴 | 葉がしまっているものが望ましい |
| 検定試験について | **クラス**：華掌下附後　**時期**：通年 |
| 花展での使用について | 特に決まりはない |

## 小原流

### 花型は特に決まっていない

| | |
|---|---|
| 使用の有無 | 決まった花型は無く、ほとんど使用しない。ただし槇柏・柏槇は、花展においては文人調いけばなとしてよく使用される |

## 草月流

### 花型は特に決まっていない

| | |
|---|---|
| そのほかポイント | 使用するが頻度、花型は特に決まっていない |

## 龍生派

### 古典華（生花・立華）

| | |
|---|---|
| 使用時期 | 少ないながら通年 |
| 使用本数 | **生花**：7～8本　**立華**：2～3本 |
| 枝のサイズ | **生花**：70～80ｃｍ　**立華**：60～70ｃｍ |
| 枝ぶりなど特徴 | 葉が多く付いているもの |
| 葉のサイズ | 短く密集しているもの |
| 検定試験について | **生花**：初級・上級　**立華**：役枝の一つとして使われる　**時期**：通年 |
| 花展での使用について | 立華の一部として使われる |

## 古流理恩会

### 生花（本手生・中流生・受流生・流生・留流生）

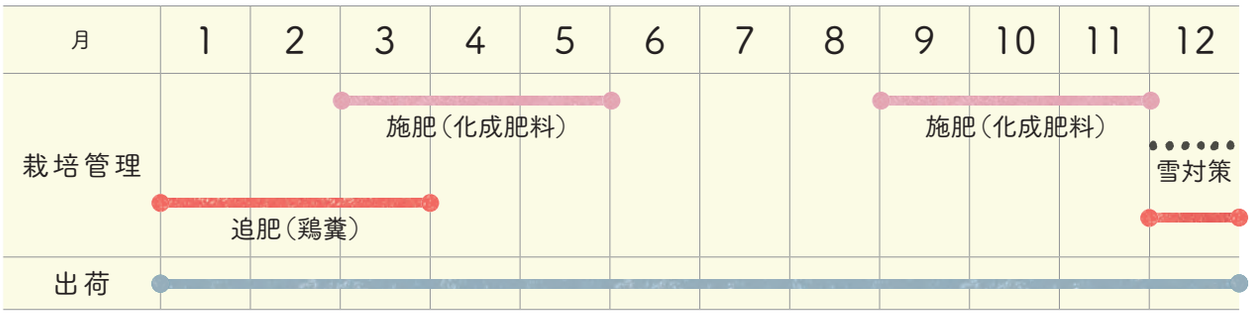
| | |
|---|---|
| 使用時期 | 1～12月 |
| 使用本数 | 5～9本（1把） |
| 枝のサイズ | 90ｃｍ以上 |
| 枝ぶりなど特徴 | 枝分かれが少ないもの |
| 葉のサイズ | 枝葉の間隔が狭いもの |
| そのほかポイント | 枝がある程度の太さ（10ｍｍ以上）で曲がりの少ないもの |
| 検定試験について | **クラス**：初級～中級　**時期**：決まっていない |
| 花展での使用について | 通年使用する |

# 生産のポイント

イブキでは、徳島県の生産地の例を紹介します。

## 生産スケジュール

徳島県の例




- 出荷は通年だが、1～2月は出荷量が少ない。
- 潅水は自然潅水のみ。
- 施肥は春と秋に化成肥料。追肥は冬に鶏糞。
- イブキチビキバガ（蛾の1種）の幼虫の食害を受けると、枝の先端が曲がってしまう。
- 除草は年3回程度、生えてきたら除草剤を散布しているため、期間を決めていない。
- 雪対策では雪の重みで倒れないように株を括っている。

イブキの品種について

神山イブキ

マニュアルで紹介しているイブキ。徳島県では栽培に適したものを選抜していった結果、このイブキを栽培している。（1月撮影の写真のため、夏場の緑色とは異なります）

カイヅカイブキ

池坊で好まれる品種。市場取引は非常に少ない。

生産のポイント

## 圃場の様子

### ● 平坦な圃場から斜面を利用した圃場まで環境はさまざま

斜面にある圃場の様子。中間に植えてあるのがイブキ（手前はクジャクヒバ）。クジャクヒバとイブキの両方を栽培しているケースが多い。

雪対策に株を紐で縛り、雪の重みで枝が曲がらないようにしている（冬期）。

生産のポイント

## 栽培について

### ● イブキは定植してから4年ほどで収穫できる

1株の様子。株元から枝分かれするように栽培管理をしている。写真の株からは毎年5～6本収穫ができる。翌年には短い枝が伸びてきて、収穫適期を迎える。

定植2～3年のまだ若い株。来年からは収穫ができるようになる。イブキは挿し木が比較的容易にできる。定植の際の株間は80cmくらい。

株元の様子、新しい枝が出てきている。

生産のポイント

# 収穫について

## ● イブキは収穫方法が2パターンある

収穫には電動のハサミを用いて、株元から収穫する。

### 収穫について

収穫の2つのパターンについて

- 注文に対応し、顧客や市場が求める規格に合わせて、選別しながら収穫する。（主に特級を選別する）
- 株の中で収穫可能なものはすべて収穫し、収穫後に作業場で規格分けを行う。

生産のポイント

# 収穫後の処理について

## 【作業例】

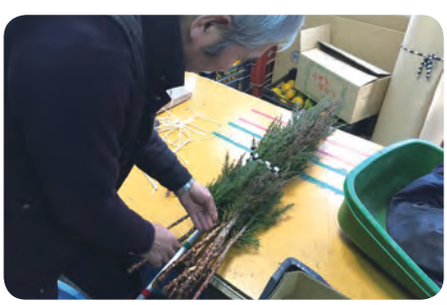
### ❶ 水あげ

収穫後はすぐに水につける。真水で30分を目安に水あげする。

すぐに水あげしないと葉先が枯れてしまう。夏場は特に注意が必要。

### ❷ 長さの選別

枝の長さを測り、120cm、110cmに分ける。茎の根元30cmは葉を取り除く。



長さの計測は120cm、110cm、30cmの目印がついた棒（写真左）を使用して行う。

### ❸ 枝の選別と調整

❷の作業の後で、軽度の曲がりの枝については、曲がりを直す板を使用し、まっすぐにする。圃場の時点で曲がりがひどいものは収穫しない。

○のついた枝のようにひどく曲がっているものは選別時でも取り除く。

曲がりを直す板。枝の太さに合わせて穴が空いている。圃場で栽培中に曲がりのもの（特に先端）を調整すると、より曲がりが強くなってしまう。収穫後に調整する場合は、軽度であれば、曲がりの修正が可能。

# 出荷のポイント

イブキは長さの異なる枝を束ねて、50本で出荷します。

出荷のポイント

## 出荷作業について

### ● 長さの異なる枝を組み合わせて結束する

120cmを2本、110cmを3本で、5本1束にする。

5本束を作ったら、
すぐに水につける。

### ● 5本の束、10束を一箱に詰める

箱詰めの様子。下に5束入れ、新聞を敷いてから上に5束入れる。

出荷のポイント

## 荷姿について

● **出荷規格：120cm、1箱50本入り。**
**5本×10束（120cm2本、110cm3本）**

枝の太さは同じ太さに揃えている（直径1.5cmくらい）。足元30cmの葉は取り除いてある。

市場到着の荷姿の様子。

イブキ マニュアル　情報提供にご協力いただいた皆様

ＪＡ名西郡様、全国農業協同組合連合会
徳島県本部様、
株式会社ＪＦ兵庫県生花梅田生花市場様、
京都生花株式会社様、株式会社花市商店様